

## 1. 略歴

1997年4月	東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
1999年4月	東京大学文学部言語文化学科英語英米文学専修課程進学
2001年3月	東京大学文学部言語文化学科英語英米文学専修課程卒業
2001年4月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻英語英米文学専門分野修士課程入学
2003年3月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻英語英米文学専門分野修士課程修了
2003年4月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻英語英米文学専門分野博士課程入学
2004年8月	米国メリーランド大学大学院言語学科博士課程入学
2004年10月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻英語英米文学専門分野博士課程休学
2007年9月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻英語英米文学専門分野博士課程退学
2009年8月	米国メリーランド大学大学院言語学科博士課程修了 博士号 (Ph. D. in Linguistics) 取得
2010年4月	大東文化大学外国語学部英語学科 専任講師
2018年4月	大東文化大学外国語学部英語学科 准教授
2020年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

英語学／理論言語学

### b 研究課題

焦点移動に関わる諸構文を主とした比較統語論研究

### c 概要と自己評価

2020～2021年度は、研究分担者となっている科研費基盤研究(C)の研究課題「機能範疇を伴う依存関係の包括的研究：『構造』『意味』『語用』の観点から」の初年度および二年目にあたる。

2020年度には、自身の日本語の語の移動と省略に関する二つの過去の研究を比較対照しながら、紀要の形にまとめて発表した。扱った構文の一つは「太郎は納豆を食べたが、私はなぜ納豆を(太郎が食べたの)か分からない」のような文において、下線部の「なぜ(why)＋構成素」が残り、( )内が省略されるという「why剥ぎ取り構文」であり、「なぜ」と共に削除を免れる構成素(例：「納豆を」)は焦点移動をするという分析を提案した。この構文についての焦点移動の考察が、次年度に分裂文における焦点移動について考える契機ともなった。

2021年度には、「統語と意味のインターフェイス」のコラムで、英語の「剥ぎ取り構文」(“John ate an apple, but not an orange.”のbut以下の部分のような省略形)が焦点移動と削除からなるという分析、英文学会の発表においては、日本語の分裂文が焦点移動を含むという分析の妥当性とその帰結を論じた。科研の研究代表者小畑美貴氏との共同研究において、日本語分裂文における焦点の「主格制限」に注目し、ラベル付けアルゴリズム及び格付与のタイミングによって、なぜ日本語分裂文では主格制限が観察されるのか、また複数の要素が焦点移動される場合は主格制限が消失するのかの説明を行った。

2020～2021年度には招待講演、学会発表、論文出版などによる成果発表を複数行うことができた。研究代表者との共同研究も一定の成果をあげており、科研の研究課題のプロジェクト全体としても概ね順調に進行している。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共著、大津由紀雄・今西典子・池内正幸・水光正則(監修)、「言語研究の世界：生成文法からのアプローチ」、研究社(pp151-153、「コラム3：統語と意味のインターフェイス」を担当)、2022.3

#### (2) 論文

単著、中尾千鶴、「日本語における語の移動と省略」、『文化交流研究第34号』、東京大学文学部次世代人文学開発センター、pp57-64、2021.3

共著、中尾千鶴、小畑美貴、「日本語の分裂文における素性値のタイミングと焦点移動」、Proceedings of Sophia University Linguistic Society、上智大学言語学会、pp42-55、2022.1

(3) 学会発表

国内、中尾千鶴、「日本語における語の移動と省略」、東京大学次世代人文学開発センター・文化交流茶話会、オンライン、2020.10.22

国内、中尾千鶴、「Considering Saito (2017) Notes on the Locality of Anaphor Binding and A-Movement」、慶應言語学コロキウム、Zoom with a Minimalist View #1 第3回、オンライン、2020.11.14

海外、共同発表、Miki Obata and Chizuru Nakao, “The Nominative Constraint in Japanese Cleft Constructions: Agreement, Labeling and Timing of Feature-Valuation”, Move and Agree: Forum on the formal typology of A'-agreement, the University of British Columbia and McGill University、オンライン、2021.5.31

国内、共同発表、小畑美貴、中尾千鶴、「Timing of Feature Valuation and Focus Movement in the Japanese Cleft Construction」、上智言語学会第35回年次大会、オンライン、2021.7.17

国内、中尾千鶴、「日本語の削除構文と分裂文における焦点移動」、東京大学英文学会、オンライン、2022.3.19

**3. 主な社会活動**

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、大東文化大学、「ゼミナールIIA・B」「リーディング1A・B」、2020.4～2021.3、「ライティング1A・B」、2020.4～2022.3

(2) 学会

日本英語学会、編集委員、2021.7～